

海原

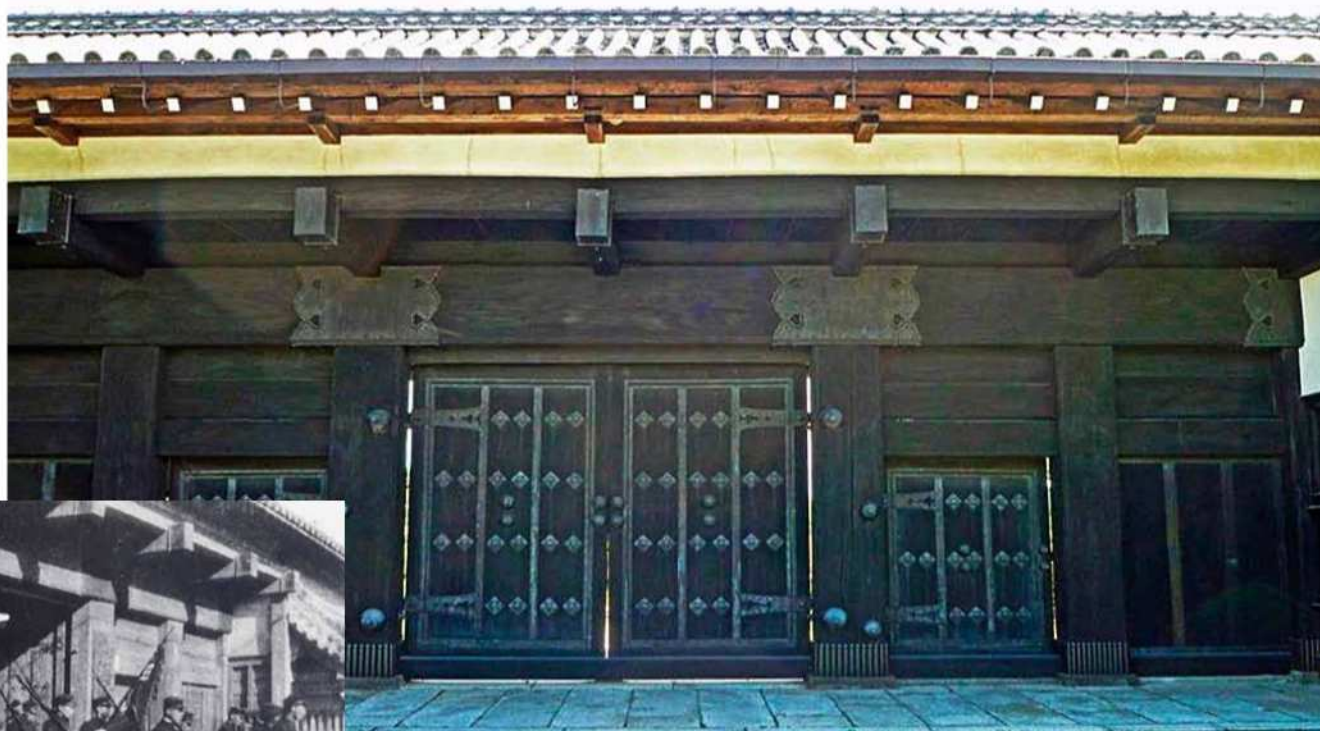
電学海原孝好先生

発行
平成24年12月1日
第36号
海城学園海原会

〔海原会事務局〕
〒169-0072 東京都新宿区大久保3-6-1 海城学園
TEL 03-3209-5880 FAX 03-3209-6990
E-mail: unabara@kaijo.ed.jp

在った! 海城の歴史的校門

今年、海原会サロン（9月15、16日）では目玉の一つに「海城ゆかりの地をゆく」という企画を立て、麴町の海軍予備校跡地からその後の移転先を回った。その中で明治大正時代に海城の校門として使われていた武家屋敷門が現存することがわかり訪ねた。この門は歴代幕府老中の屋敷の表門で、江戸城東廊八重洲大名小路に設けられたもので、海城の前身海軍予備校が校門として使ったという。その規模は長さ約22メートル幅5メートルと堂々たるもの。圧倒的な存在感をみせ「すごい!」というほかない。



写真下:
豊ヶ岡時代の校門



私たちはクルマを走らせた。目的地は千葉・九十九里町にある山脇学園臨海施設「松籟荘」。いまここに我々が目的とする海城の校門だった屋敷門が移築されているという。一般には公開されていないことから、事前に山脇学園に必要な手続きをとり向かった。在った!

この施設はフェンスと垣根で二重に覆われ、外からは長屋門は見えない。中に入ると芝生と松樹を配しながらの、行き届いた広大な庭園の一角にあり、更に長屋門の周りは垣根で囲まれ入る事が出来ない。さながら松籟の風情がある。大切に遷座されている。

麴町に創立した海軍予備校は生徒が増えたことにより明治30年に宮内省を通して元司法省の建物を下賜され（今の東京駅中央郵便局あたり）移転し校舎にした。そして明治32年に霞が関に新校舎を落成した時この武家屋敷門も移築されて以来、昭和を迎えるまで海城の校門として使用されていた。昭和2年に学園が現在の地に移転した時、鉄筋コンクリートの洋風校舎と江戸時代の大名屋敷門とはマッチしない為ばかりでなく、経済的負担も大きく袂を分かった。その後、昭和6年財界の大御所藤山雷太が政府より譲り受け、芝白金の藤山邸の正門に移築、戦後は米国艦隊官舎、イタリヤ大使館官舎、昭和39年近鉄が買取、山脇学園に寄贈、昭和49年現在地に移築された。

この門は今や国の「重要文化財」になっている。東大の赤門、国立博物館内の黒門（池田屋敷）と並ぶ「日本三門」の一つだ。

思うにこの校門を有為な生徒が何人くぐっただろう。近代文明の拠点、築地にある海軍兵学校への教練、あこがれの海軍に近い制服を身につけ、街を闊歩した時代。幾多の人材を送り出した「校門」に想いを馳せる。（山本満男 記）

（協力・杉山絃千佳、関野龍一）
（参考文献、海城百年史、山脇学園案内書、司馬遼太郎「街道をゆく」）

今や重要文化財
「日本三門」の一つに

海原会総会

人超 会場を埋め尽くす

平成24年度の海原会総会は恒例の6月第一土曜日（今年は2日）に母校海城学園の講堂をお借りして開催されました。出席者は今年も300人にのぼり会場は超満員。昭和36年卒の同期生がお揃いのピンクのTシャツを着て出席するなど、各年代で総会に合わせて同期会を企画し、同期生に呼びかけてまとまって参加するケースも増えているようです。

総会は徳光海原会会長の挨拶で幕を開け、来賓の学園理事長、校長の挨拶を頂いたあと議事に入りました。昨年度23年度の活動報告および決算報告。そして今年24年度の活動計画案と予算案の報告（詳細4頁）さらに海原会役員の変更と一部組織の変更についての説明報告が行われました。海原会役員の変更は永年副会長として会長を支え海原会の運営に尽力されてきた立石博巳氏（昭和26年卒）が、学園の後援会の会長に就任されることに伴って行われたもので、合わせて委員会、部会の一部組織の見直しもなされたことが報告されました。最後にこれらすべての議事内容が総会出席者の拍手をもって承認されました。

続いては卒業から60年にあたる昭和27年の卒業生以下、昭和37年（50年）、昭和47年（40年）、昭和57年（30年）、平成4年（20年）の

海原会会員諸兄にはご参加頂きましてありがとうございます。海城学園は120年の歴史と伝統を重ねて来た訳でございますが、どうしてもOB会と申しますとその身辺が若干暇になる60代からの集まりになる様で、川柳で申しますと「久しぶり思い出せずにじゃあまたな」という状況になることも間々ある訳です。そうなるも段々と同窓会へも足が遠くなるという方もいらっしゃるのではないかと思います。

それならば、横のラインは勿論ですが、先輩、後輩の縦のラインに眼を向けまして海原会として出



縦横のラインで交流促進

徳光和夫会長

来るものと考えたいということ、私は会長とは名ばかりですが、副会長の皆様、常任幹事の皆様が叡智を集めていただいていただき、比較的皆様が参加

でき、経験、体験のございますゴルフ大会ではないだろうかというところで、今回ゴルフ大会を開催する運びとなりました。またこのゴルフ会のみならず

えていきたいと思います。そんな中で医学系の海原会を結成する動きもあります。こうした同業種で海城のOB同士が集まろうという話も伺っています。実際に弁護

トして行つて世代を超えたつながり、世代を超えて全く知らない同士が海城学園というこの学び舎、ブランドの中でつながり合うということを考えておりますので、是非皆様にはご協力、積極的なサポートをお願い

力、積極的なサポートをお願いいたします。

今海原会の中でいろいろな形、それぞれのジャンルで海城のOB会を作ろうという機運がある様です。たとえばここ10年の傾向として、お伺いしたところによりまして、医学界に進むOBが大変増

士や検察など法曹関係や、私が関係しております電波、メディアの放送関係など、海城のOB同士が集うことで若干のメリットも生まれてくるのではないかと思います。それを海原会でサポート

それからもう1点、ここでは非お話をさせて頂きたいのが、この海原会が名会長であられた植木前会長の後をやらせて頂いて分かったことではありますが、非常にしっかりと中堅の幹事、委員の皆様が

サポートされていることが分かりました。かといって資金が潤沢であるということではありませんが、そちらのご協力をお願いもあるかもしれません、そのしつかりと成り立っている、支えてきた主柱とでも言うべき立石さんが今回、学園の後援会長になられることになり副会長の座を卒業されることになりました。このことを併せて立石様の労をねぎらわせて頂くと同時に皆様へ報告させて頂き、私の挨拶とさせて頂きま

す。皆様、ご静聴をありがとうございます。



第91回

参加者300

各対象年卒業生へ記念品が贈られ、勇退する立石副会長、および海原会に多額の寄付をいただいた昭和26年卒 徳田和言氏、昭和54年卒 高橋 信氏に対して感謝状と記念品が贈られました。

そして現役生徒の吹奏楽団の演奏を楽しんだ後、場所をカフェテリアに移して親睦会となりました。出席者の中の最長老、100歳になるという昭和4年卒の清水秀雄さん（写真右下）の乾杯の首頭で始まった親睦会は、カフェテリアの一階二階を埋め尽くすほどの盛況ぶり、あちこちで同期生のグループや年代を超えた歓談の輪ができました。

平成24年度海原会総会おめでとうございます。

年を追って海原会も隆盛を極め、今年の総会参加者数も過去最多と伺っております。

卒業生の一人として誇りに思ひ、また母校をお預かりしている者と致しては、とても力強く感じ

しましたが、双方とも順調に推移しております。

創立者は、海軍兵学校の教子である後の海軍大臣山本権兵衛に対し「あなたは艦を造れ、オイは人を作る」と言いつ、海城学園の前身である海軍予備校を作りました。

力発電所事故の影響により母校3号館に緊急避難して、昨年度1年間教育活動を行ってまいりました。その間、海原会の皆様から多額のご支援をいただきましたし、在校生、教職員からも暖かいご協力をいただいております。

今年度から、多摩市の旧公立

世界を視野に紳士育成

理事長 古賀壹博



しております。会長はじめ役員の皆様のご努力に敬意を表すると共に、会員の皆様方のご協力に感謝申し上げます。

母校海城中学高等学校についてご報告いたします。

昨年、高校入試を停止して完全中高一貫化を実現し、また帰国生の本格的な受け入れも開始

海城の教育目標は真の人間教育であり人材養成なのです。そして、当初から常に世界を視野に入れた教育を目指してきましたが、今は海外の文化を経験してきた生徒を受け入れることにより実現しています。多様な文化の存在を理解し、豊かな人間性を持つ「新しい紳士」を育成することに注力してまいりたいと思っております。

次に、母校の兄弟校、那須高原海城中学高等学校についてご報告いたします。

東日本大震災、更に福島原子

中学校施設を借用し学校を運営して行くことと致しました。

同時に、本校出身の桜美林学園佐藤理事長から寮施設のご協力をいただき、全寮制を復活することが出来ました。

多事多端な状況は、今後も続くとは思いますが、学園創立時の人間作りの理想を忘れることなく、常に時代の要請と期待に応えられる学校でありたいと思っております。

海原会ますますの発展を祈念し、今後とも力強いご支援をお願いして挨拶いたします。



海原会の皆様、平成24年度海原会定期総会の開催、誠にありがとうございました。心からお祝い申し上げます。

日頃、皆様におかれましては、先輩として、本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。これからも本校

については、一よりグローバルによりタフに――をサブスローガンに、①国際標準（秋期入学）と整合することに伴い、学生・教員の国際流動性を高められること、②高校から大学入学までの空白の期間が生まれ、ギャップイヤーとして有効活用ができることの2点を挙げてい

うことへの対応も順調に行われました。

そこで今年度は、社会のグローバル化への対応を視野に入れ、海外に目を向けた新たな教育活動を展開するために「グローバル教育部」を立ち上げました。当面の活動内容は、「国際的な視野の

社会のグローバル化に対応

校長 水谷 弘



発展のために、全力投球してまいる所存でございますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

最近の社会の動きの中で我が校として注視すべきことの一つが、東京大学の学部生秋期入学移行についての記事です。

今回の東大の秋期入学の利点に

ます。

多くの大学や産業界そして政府もが、早々に積極的に支持を打ち出しているのを見ると、今回の提言の背景には日本型の人材育成システムが、グローバル社会では通用しないと言う強い危機感が働いているようです。

昨年、ご報告致しました本格的な帰国生受け入れにつきま

しては、入学後のメンタル面についての特段の問題も無く、海外で培ってきた英語力の伸長や海外生活で学習しなかった内容（日本語力、日本の歴史・地理などを補

てまいろうと考えております。

海原会の諸先輩のご指導・ご支援をどうぞよろしくお願い致します。本日は、お招きいただき誠に有り難うございます。

育成「在校生の留学支援」「海外大学進学への支援」「海外研修の充実」「英語教育の促進」「帰国生の支援」などを視野に入れております。

これからの益々完全六年一貫教育を充実させ、建学の精神「国家・社会に有為な人材を育成する」に立つ教育を磐石なものにしてまいろうと考えております。

平成23年度海原会活動報告及び平成24年度活動計画

	平成23年度活動報告 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)	平成24年度活動計画 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)
4月	20日広報委員会(HP更新) 23日合同委員会・常任委員会	7日編集会議 21日合同委員会・常任幹事会 21日編集会議 28日編集会議
5月	15日広報委員会(パスワード変更) 21日広報委員会 28日広報委員会	7日会報35号発行 12日広報委員会・総務企画委員会 15日広報委員会(パスワード変更) 28日総務企画委員会 30日総務企画委員会
6月	4日海原会総会 11日記念機三笠見学会	2日海原会総会
7・8月	7月23日海原会サロンWG会議開催 8月27日海原会サロンWG会議開催	7月海原会サロン部会会議 8月海原会サロン部会会議 8月総務企画委員会・広報委員会
9月	3日編集会議 8日海原会サロンWG会議開催 10日編集会議 17・18日海原会サロン	15・16日海原サロン
10月		総務企画委員会・事業委員会 合同委員会・常任幹事会 12日海原会GOLF会
11月	11月土曜日会報編集会議	11月土曜日会報編集会議
12月	1日会報34号発行 3日合同委員会・常任委員会 16日海原会GOLF会準備会	会報36号発行
1月	28日海原会GOLF会実行委員会会議	
2月	25日広報委員会 27日海原会GOLF会実行委員会会議	広報委員会・総務企画委員会
3月	3日ブランディング部会会議 10日編集会議 17日編集会議 24日合同委員会・常任幹事会 31日編集会議・サロン準備会 31日海原会サロン会議開催	合同委員会・常任幹事会 (各委員会・部会は適宜会議を開催)

平成23年度収支計算書及び平成24年度予算

(平成23年4月1日～平成25年3月31日)

単位=円

収入の部	平成23年度予算	平成23年度決算	平成24年度予算	備考
永年会費	2,500,000	2,212,000	2,200,000	
年度会費	400,000	744,000	800,000	
入会金	3,820,000	3,780,000	3,760,000	376名予定
総会参加費	500,000	848,000	800,000	
その他収入	0	300,970	400,000	
寄付金	50,000	532,000	50,000	
雑収入(利子)	5,000	1,977		
合計	7,275,000	8,419,337	8,010,000	
支出の部	平成23年度予算	平成23年度決算	平成24年度予算	備考
会議費	100,000	140,281	150,000	
総会運営費	1,300,000	1,565,104	1,600,000	記念品代を含む
会報印刷送達費	4,800,000	4,516,361	4,680,000	2回発行予定
会報編集費	300,000	191,771	200,000	
通信費	80,000	100,955	120,000	
クラス会補助	100,000	90,000	100,000	
委員会補助	200,000	200,000	200,000	吹奏楽団
慶弔費	30,000	0	30,000	
振替手数料	50,000	59,715	60,000	
事務費	50,000	41,843	50,000	
海原会賞	60,000	16,720	60,000	3名予定
総務費	130,000	126,000	0	
広報活動費	170,000	47,692	250,000	サーバー維持と管理費用
ホームページ改定費	630,000	630,000	200,000	
備品費	0	0	0	
用品費	0	592,340	430,000	
雑費	0	43,807	0	
海原会参加費	200,000	260,116	280,000	パンフ代金含む
予備費	2,000,000	2,000,000	0	
合計	10,200,000	10,622,705	8,410,000	
前年度繰越金	15,073,534	15,073,534	12,870,166	
当年度繰不足金	-2,925,000	-2,203,368	-400,000	
次年度繰越金	12,148,534	12,870,166	12,470,166	

後援会会長就任にあたり

今後は海原会との橋渡し役に

私は海城学園を卒業してから61年が経ちました。光陰矢のごとしとはこのことです。卒業してから二年ほど経ったある日、河原孝好先生から「お前海原会の仕事を手伝え」といわれましてお手伝いをはじめ、会計監査を長らく担当しその歴代会長にお仕えし、田村会長、植木会長、徳光会長の下で副会長を務め、本年の総会で退任いたしました。この間無事に務められたのも古賀理事長先生、水谷校長先生、海原会の諸先輩、同期の皆さま後輩の皆さま、教職員の方々のおかげです。また私は古賀理事長先生、水谷校長先生

よりお話があり、本年7月1日に海城学園後援会会長に就任致しました。後援会は平成19年に設立され、初代尾上会長が今年の6月まで4年半にわたり大変なご努力をされ後援会の基礎を築かれました。後援会は皆さまには耳新しいとは思いますが、学校の教育理念を広く共有し、学校と協力して教育の充実と学校の発展を図るための援助を行うことを目的としております。(詳細はHPをご覧ください)これからは海原会、PTA、後援会という三つの組織で協調しながら海城学園を益々元気に盛りたてて行こうではありませんか。

(昭和26年卒 立石博巳)





「無言館」見学会

総勢17名が参加

見学会は10月25日、足を延ばして「信州の鎌倉」ともいえる長野・上田市にある「無言館」を訪ねた。同館は太平洋戦争下、生きて還つて絵を描きたいと言いつながら散つて逝つた、若き画学生たちの遺作、遺品を並べた館で、昭和35年卒の窪島誠一郎氏が運営している異色な美術館と言えよう。私達も異色？総勢14名だが、昭和28年卒の片山時子さん、蒲田泰子さん、後援会長の立石博巳氏（元海原副会長）、それにあの自画像Tシャツの元美術教師の草野先生、更に大先輩の昭和19年卒の山下夫妻、副会長の安

藤夫妻の二組、万事が最高の機運。同館は塩田平を見下ろす山王山の丘陵地にある。この地域一帯に無言館と第2別館、信濃デッサン館、分館が点在、ウオーキングコースになっている。見学会一行は、無言館を鑑賞後、約500m離れた信濃デッサン館に向かう。この美術館は大正昭和にかけて天折された、美術史に残る優れた画家の展示館です。塩田平を見下ろす眺望に一行は見とれて、カメラに夢中で動こうとしない。その事を窪島氏に告げると「ヘタな絵を見るより風景に惚れて結構だよ。来て貰ったことが大事だよ」(笑)。



無言館の絵は、出征直前まで筆をとつて、駆り出された若き画学生の、無言の作品達だからです。鑑賞後は窪島氏のレクチャーに、笑いあり、感動ありで面白かった。途中寄り道しながら無事終了した。窪島氏は無言館について、「遺族のことを思つたら、観覧料は取れない。儲け主義と思われ」。そう言えは無料に近いお賽銭方式だった。彼の心は揺れ動いた。劣化した作品の修復など、おカネが掛かる。遂に涙を飲んで有料化に踏み切った。確か昨年のことだと思う。(山本満男 記)

◎応援して下さい
無言館の母体である「信濃デッサン館」は閉館、そして支援者の要望で復館した。同窓の私達は少しでも役に立つべく「友の会」に入会されますようご協力お願いします。詳細お問合せは山本まで。
TEL 043-461-6746
メールアドレス yama2459@ybb.ne.jp
(撮影 杉山敏千佳)

大盛況 100人が参加 第一回ゴルフ大会

海原会の記念すべき第一回ゴルフ大会が、10月12日、徳光会長以下総勢97名の参加を得て開催されました。会場は、茨城県つくば市の「豊里ゴルフクラブ」。当日は、快晴の下、心地よい秋風を頼にうけて、昭和23年卒の大先輩から、平成3年卒の若手までかつての海城健児が、その技を競い合いました。優勝は実行委員長の吉岡幸夫氏(昭和32年卒)。グロス72、エージシュート(自己の年齢を下回るスコア達成)のオマケまでついたダントツのベスグロ優勝でした。二位は、これも副実行委員長の松島義人氏(昭和41年卒)、二位は佐藤良二氏(昭和41年卒)でした。



プレイ終了後、表彰式兼懇親会が開かれ、元テレビ東京アナウンサーの四家秀治氏(昭和52年卒)の司会により執り進められました。次々に発表される入賞者の笑顔に混じって、徳光会長の軽妙洒落な挨拶もあって、大いに盛り上がりました。立石博巳前海原会副会長(昭和26年卒)、林 昭策氏(昭和36年卒) 初め多くの方々から賞品や

参加賞などの寄贈品を頂戴しました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。また今回のゴルフ大会で、母校出身のプロゴルファーが3人もいることが判明したのは驚きでした。梶 宏光プロ(昭和37年卒)は、12年前にベトナムに渡り、現地で旅行会社を経営し邦人向けゴルフツアーを主催しています。関谷道人プロ(昭和42年卒)はトーナメントプロとして活躍、現在は仙川ゴルフ練習場(東京都三鷹市)に所属しています。もう一人森口康一プロ(昭和42年卒)は栃木県の芳賀カン

トリックラブ所属、現栃木県プロゴルフ協会会長を務めています。同窓生の幅広い交流の機会を作り、会員同士の親睦を図るといふゴルフ会設立の当初の目的と狙いは予想以上に大きな成果をもたらしたようです。(安藤 浩)

第一回海原会GOLF会コンペ出席者

昭和23年	氏名	昭和26年	氏名	昭和29年	氏名	昭和32年	氏名	昭和35年	氏名	昭和38年	氏名	昭和41年	氏名	昭和44年	氏名	昭和47年	氏名	昭和50年	氏名	昭和53年	氏名	昭和56年	氏名	昭和59年	氏名	昭和62年	氏名	昭和65年	氏名	昭和68年	氏名	昭和71年	氏名	昭和74年	氏名	昭和77年	氏名	昭和80年	氏名	昭和83年	氏名	昭和86年	氏名	昭和89年	氏名	昭和92年	氏名	昭和95年	氏名	昭和98年	氏名	昭和101年	氏名	昭和104年	氏名	昭和107年	氏名	昭和110年	氏名	昭和113年	氏名	昭和116年	氏名	昭和119年	氏名	昭和122年	氏名	昭和125年	氏名	昭和128年	氏名	昭和131年	氏名	昭和134年	氏名	昭和137年	氏名	昭和140年	氏名	昭和143年	氏名	昭和146年	氏名	昭和149年	氏名	昭和152年	氏名	昭和155年	氏名	昭和158年	氏名	昭和161年	氏名	昭和164年	氏名	昭和167年	氏名	昭和170年	氏名	昭和173年	氏名	昭和176年	氏名	昭和179年	氏名	昭和182年	氏名	昭和185年	氏名	昭和188年	氏名	昭和191年	氏名	昭和194年	氏名	昭和197年	氏名	昭和200年	氏名	昭和203年	氏名	昭和206年	氏名	昭和209年	氏名	昭和212年	氏名	昭和215年	氏名	昭和218年	氏名	昭和221年	氏名	昭和224年	氏名	昭和227年	氏名	昭和230年	氏名	昭和233年	氏名	昭和236年	氏名	昭和239年	氏名	昭和242年	氏名	昭和245年	氏名	昭和248年	氏名	昭和251年	氏名	昭和254年	氏名	昭和257年	氏名	昭和260年	氏名	昭和263年	氏名	昭和266年	氏名	昭和269年	氏名	昭和272年	氏名	昭和275年	氏名	昭和278年	氏名	昭和281年	氏名	昭和284年	氏名	昭和287年	氏名	昭和290年	氏名	昭和293年	氏名	昭和296年	氏名	昭和299年	氏名	昭和302年	氏名	昭和305年	氏名	昭和308年	氏名	昭和311年	氏名	昭和314年	氏名	昭和317年	氏名	昭和320年	氏名	昭和323年	氏名	昭和326年	氏名	昭和329年	氏名	昭和332年	氏名	昭和335年	氏名	昭和338年	氏名	昭和341年	氏名	昭和344年	氏名	昭和347年	氏名	昭和350年	氏名	昭和353年	氏名	昭和356年	氏名	昭和359年	氏名	昭和362年	氏名	昭和365年	氏名	昭和368年	氏名	昭和371年	氏名	昭和374年	氏名	昭和377年	氏名	昭和380年	氏名	昭和383年	氏名	昭和386年	氏名	昭和389年	氏名	昭和392年	氏名	昭和395年	氏名	昭和398年	氏名	昭和401年	氏名	昭和404年	氏名	昭和407年	氏名	昭和410年	氏名	昭和413年	氏名	昭和416年	氏名	昭和419年	氏名	昭和422年	氏名	昭和425年	氏名	昭和428年	氏名	昭和431年	氏名	昭和434年	氏名	昭和437年	氏名	昭和440年	氏名	昭和443年	氏名	昭和446年	氏名	昭和449年	氏名	昭和452年	氏名	昭和455年	氏名	昭和458年	氏名	昭和461年	氏名	昭和464年	氏名	昭和467年	氏名	昭和470年	氏名	昭和473年	氏名	昭和476年	氏名	昭和479年	氏名	昭和482年	氏名	昭和485年	氏名	昭和488年	氏名	昭和491年	氏名	昭和494年	氏名	昭和497年	氏名	昭和500年	氏名	昭和503年	氏名	昭和506年	氏名	昭和509年	氏名	昭和512年	氏名	昭和515年	氏名	昭和518年	氏名	昭和521年	氏名	昭和524年	氏名	昭和527年	氏名	昭和530年	氏名	昭和533年	氏名	昭和536年	氏名	昭和539年	氏名	昭和542年	氏名	昭和545年	氏名	昭和548年	氏名	昭和551年	氏名	昭和554年	氏名	昭和557年	氏名	昭和560年	氏名	昭和563年	氏名	昭和566年	氏名	昭和569年	氏名	昭和572年	氏名	昭和575年	氏名	昭和578年	氏名	昭和581年	氏名	昭和584年	氏名	昭和587年	氏名	昭和590年	氏名	昭和593年	氏名	昭和596年	氏名	昭和599年	氏名	昭和602年	氏名	昭和605年	氏名	昭和608年	氏名	昭和611年	氏名	昭和614年	氏名	昭和617年	氏名	昭和620年	氏名	昭和623年	氏名	昭和626年	氏名	昭和629年	氏名	昭和632年	氏名	昭和635年	氏名	昭和638年	氏名	昭和641年	氏名	昭和644年	氏名	昭和647年	氏名	昭和650年	氏名	昭和653年	氏名	昭和656年	氏名	昭和659年	氏名	昭和662年	氏名	昭和665年	氏名	昭和668年	氏名	昭和671年	氏名	昭和674年	氏名	昭和677年	氏名	昭和680年	氏名	昭和683年	氏名	昭和686年	氏名	昭和689年	氏名	昭和692年	氏名	昭和695年	氏名	昭和698年	氏名	昭和701年	氏名	昭和704年	氏名	昭和707年	氏名	昭和710年	氏名	昭和713年	氏名	昭和716年	氏名	昭和719年	氏名	昭和722年	氏名	昭和725年	氏名	昭和728年	氏名	昭和731年	氏名	昭和734年	氏名	昭和737年	氏名	昭和740年	氏名	昭和743年	氏名	昭和746年	氏名	昭和749年	氏名	昭和752年	氏名	昭和755年	氏名	昭和758年	氏名	昭和761年	氏名	昭和764年	氏名	昭和767年	氏名	昭和770年	氏名	昭和773年	氏名	昭和776年	氏名	昭和779年	氏名	昭和782年	氏名	昭和785年	氏名	昭和788年	氏名	昭和791年	氏名	昭和794年	氏名	昭和797年	氏名	昭和800年	氏名	昭和803年	氏名	昭和806年	氏名	昭和809年	氏名	昭和812年	氏名	昭和815年	氏名	昭和818年	氏名	昭和821年	氏名	昭和824年	氏名	昭和827年	氏名	昭和830年	氏名	昭和833年	氏名	昭和836年	氏名	昭和839年	氏名	昭和842年	氏名	昭和845年	氏名	昭和848年	氏名	昭和851年	氏名	昭和854年	氏名	昭和857年	氏名	昭和860年	氏名	昭和863年	氏名	昭和866年	氏名	昭和869年	氏名	昭和872年	氏名	昭和875年	氏名	昭和878年	氏名	昭和881年	氏名	昭和884年	氏名	昭和887年	氏名	昭和890年	氏名	昭和893年	氏名	昭和896年	氏名	昭和899年	氏名	昭和902年	氏名	昭和905年	氏名	昭和908年	氏名	昭和911年	氏名	昭和914年	氏名	昭和917年	氏名	昭和920年	氏名	昭和923年	氏名	昭和926年	氏名	昭和929年	氏名	昭和932年	氏名	昭和935年	氏名	昭和938年	氏名	昭和941年	氏名	昭和944年	氏名	昭和947年	氏名	昭和950年	氏名	昭和953年	氏名	昭和956年	氏名	昭和959年	氏名	昭和962年	氏名	昭和965年	氏名	昭和968年	氏名	昭和971年	氏名	昭和974年	氏名	昭和977年	氏名	昭和980年	氏名	昭和983年	氏名	昭和986年	氏名	昭和989年	氏名	昭和992年	氏名	昭和995年	氏名	昭和998年	氏名	昭和1001年	氏名	昭和1004年	氏名	昭和1007年	氏名	昭和1010年	氏名	昭和1013年	氏名	昭和1016年	氏名	昭和1019年	氏名	昭和1022年	氏名	昭和1025年	氏名	昭和1028年	氏名	昭和1031年	氏名	昭和1034年	氏名	昭和1037年	氏名	昭和1040年	氏名	昭和1043年	氏名	昭和1046年	氏名	昭和1049年	氏名	昭和1052年	氏名	昭和1055年	氏名	昭和1058年	氏名	昭和1061年	氏名	昭和1064年	氏名	昭和1067年	氏名	昭和1070年	氏名	昭和1073年	氏名	昭和1076年	氏名	昭和1079年	氏名	昭和1082年	氏名	昭和1085年	氏名	昭和1088年	氏名	昭和1091年	氏名	昭和1094年	氏名	昭和1097年	氏名	昭和1100年	氏名	昭和1103年	氏名	昭和1106年	氏名	昭和1109年	氏名	昭和1112年	氏名	昭和1115年	氏名	昭和1118年	氏名	昭和1121年	氏名	昭和1124年	氏名	昭和1127年	氏名	昭和1130年	氏名	昭和1133年	氏名	昭和1136年	氏名	昭和1139年	氏名	昭和1142年	氏名	昭和1145年	氏名	昭和1148年	氏名	昭和1151年	氏名	昭和1154年	氏名	昭和1157年	氏名	昭和1160年	氏名	昭和1163年	氏名	昭和1166年	氏名	昭和1169年	氏名	昭和1172年	氏名	昭和1175年	氏名	昭和1178年	氏名	昭和1181年	氏名	昭和1184年	氏名	昭和1187年	氏名	昭和1190年	氏名	昭和1193年	氏名	昭和1196年	氏名	昭和1199年	氏名	昭和1202年	氏名	昭和1205年	氏名	昭和1208年	氏名	昭和1211年	氏名	昭和1214年	氏名	昭和1217年	氏名	昭和1220年	氏名	昭和1223年	氏名	昭和1226年	氏名	昭和1229年	氏名	昭和1232年	氏名	昭和1235年	氏名	昭和1238年	氏名	昭和1241年	氏名	昭和1244年	氏名	昭和1247年	氏名	昭和1250年	氏名	昭和1253年	氏名	昭和1256年	氏名	昭和1259年	氏名	昭和1262年	氏名	昭和1265年	氏名	昭和1268年	氏名	昭和1271年	氏名	昭和1274年	氏名	昭和1277年	氏名	昭和1280年	氏名	昭和1283年	氏名	昭和1286年	氏名	昭和1289年	氏名	昭和1292年	氏名	昭和1295年	氏名	昭和1298年	氏名	昭和1301年	氏名	昭和1304年	氏名	昭和1307年	氏名	昭和1310年	氏名	昭和1313年	氏名	昭和1316年	氏名	昭和1319年	氏名	昭和1322年	氏名	昭和1325年	氏名	昭和1328年	氏名	昭和1331年	氏名	昭和1334年	氏名	昭和1337年	氏名	昭和1340年	氏名	昭和1343年	氏名	昭和1346年	氏名	昭和1349年	氏名	昭和1352年	氏名	昭和1355年	氏名	昭和1358年	氏名	昭和1361年	氏名	昭和1364年	氏名	昭和1367年	氏名	昭和1370年	氏名	昭和1373年	氏名	昭和1376年	氏名	昭和1379年	氏名	昭和1382年	氏名	昭和1385年	氏名	昭和1388年	氏名	昭和1391年	氏名	昭和1394年	氏名	昭和1397年	氏名	昭和1400年	氏名	昭和1403年	氏名	昭和1406年	氏名	昭和1409年	氏名	昭和1412年	氏名	昭和1415年	氏名	昭和1418年	氏名	昭和1421年	氏名	昭和1424年	氏名	昭和1427年	氏名	昭和1430年	氏名	昭和1433年	氏名	昭和1436年	氏名	昭和1439年	氏名	昭和1442年	氏名	昭和1445年	氏名	昭和1448年	氏名	昭和1451年	氏名	昭和1454年	氏名	昭和1457年	氏名	昭和1460年	氏名	昭和1463年	氏名	昭和1466年	氏名	昭和1469年	氏名	昭和1472年	氏名	昭和1475年	氏名	昭和1478年	氏名	昭和1481年	氏名	昭和1484年	氏名	昭和1487年	氏名	昭和1490年	氏名	昭和1493年	氏名	昭和1496年	氏名	昭和1499年	氏名	昭和1502年	氏名	昭和1505年	氏名	昭和1508年	氏名	昭和1511年	氏名	昭和1514年	氏名	昭和1517年	氏名	昭和1520年	氏名	昭和1523年	氏名	昭和1526年	氏名	昭和1529年	氏名	昭和1532年	氏名	昭和1535年	氏名	昭和1538年	氏名	昭和1541年	氏名	昭和1544年	氏名	昭和1547年	氏名	昭和1550年	氏名	昭和1553年	氏名	昭和1556年	氏名	昭和1559年	氏名	昭和1562年	氏名	昭和1565年	氏名	昭和1568年	氏名	昭和1571年	氏名	昭和1574年	氏名	昭和1577年	氏名	昭和1580年	氏名	昭和1583年	氏名	昭和1586年	氏名	昭和1589年	氏名	昭和1592年	氏名	昭和1595年	氏名	昭和1598年	氏名	昭和1601年	氏名	昭和1604年	氏名	昭和1607年	氏名	昭和1610年	氏名	昭和1613年	氏名	昭和1616年	氏名	昭和1619年	氏名	昭和1622年	氏名	昭和1625年	氏名	昭和1628年	氏名	昭和1631年	氏名	昭和1634年	氏名	昭和1637年	氏名	昭和1640年	氏名	昭和1643年	氏名	昭和1646年	氏名	昭和1649年	氏名	昭和1652年	氏名	昭和1655年	氏名	昭和1658年	氏名	昭和1661年	氏名	昭和1664年	氏名	昭和1667年	氏名	昭和1670年	氏名	昭和1673年	氏名	昭和1676年	氏名	昭和1679年	氏名	昭和1682年	氏名	昭和1685年	氏名	昭和1688年	氏名	昭和1691年	氏名	昭和1694年	氏名	昭和1697年	氏名	昭和1700年	氏名	昭和1703年	氏名	昭和1706年	氏名	昭和1709年	氏名	昭和1712年	氏名	昭和1715年	氏名	昭和1718年	氏名	昭和1721年	氏名	昭和1724年	氏名	昭和1727年	氏名	昭和1730年	氏名	昭和1733年	氏名	昭和1736年	氏名	昭和1739年	氏名	昭和1742年	氏名	昭和1745年	氏名	昭和1748年	氏名	昭和1751年	氏名	昭和1754年	氏名	昭和1757年	氏名	昭和1760年	氏名	昭和1763年	氏名	昭和1766年	氏名	昭和1769年	氏名	昭和1772年	氏名	昭和1775年	氏名	昭和1778年	氏名	昭和1781年	氏名	昭和1784年	氏名	昭和1787年	氏名	昭和1790年	氏名	昭和1793年	氏名	昭和1796年	氏名	昭和1799年	氏名	昭和1802年	氏名	昭和1805年	氏名	昭和1808年	氏名	昭和1811年	氏名	昭和1814年	氏名	昭和1817年	氏名	昭和1820年	氏名	昭和1823年	氏名	昭和1826年	氏名	昭和1829年	氏名	昭和1832年	氏名	昭和1835年	氏名	昭和1838年	氏名	昭和1841年	氏名	昭和1844年	氏名	昭和1847年	氏名	昭和1850年	氏名	昭和1853年	氏名	昭和1856年	氏名	昭和1859年	氏名	昭和1862年	氏名	昭和1865年	氏名	昭和1868年	氏名	昭和1871年	氏名	昭和1874年	氏名	昭和1877年	氏名	昭和1880年	氏名	昭和1883年	氏名	昭和1886年	氏名	昭和1889年	氏名	昭和1892年	氏名	昭和1895年	氏名	昭和1898年	氏名	昭和1901年	氏名	昭和1904年	氏名	昭和1907年	氏名	昭和1910年	氏名	昭和1913年	氏名	昭和1916年	氏名	昭和1919年	氏名	昭和1922年	氏名	昭和1925年	氏名	昭和1928年	氏名	昭和1931年	氏名	昭和1934年	氏名	昭和1937年	氏名	昭和1940年	氏名	昭和1943年	氏名	昭和1946年	氏名	昭和1949年	氏名	昭和1952年	氏名	昭和1955年	氏名	昭和1958年	氏名	昭和1961年	氏名	昭和1964年	氏名	昭和1967年	氏名	昭和1970年	氏名	昭和1973年	氏名	昭和1976年	氏名	昭和1979年	氏名	昭和1982年	氏名	昭和1985年	氏名	昭和1988年	氏名	昭和1991年	氏名	昭和1994年	氏名	昭和1997年	氏名	昭和2000年	氏名	昭和2003年	氏名	昭和2006年	氏名	昭和2009年	氏名	昭和2012年	氏名	昭和2015年	氏名	昭和2018年	氏名	昭和2021年	氏名	昭和2024年	氏名	昭和2027年	氏名	昭和2030年	氏名	昭和2033年	氏名	昭和2036年	氏名	昭和2039年	氏名	昭和2042年	氏名	昭和2045年	氏名	昭和2048年	氏名	昭和2051年	氏名	昭和2054年	氏名	昭和2057年	氏名	昭和2060年	氏名	昭和2063年	氏名	昭和2066年	氏名	昭和2069年	氏名	昭和2072年	氏名	昭和2075年	氏名	昭和2078年	氏名	昭和2081年	氏名	昭和2084年	氏名	昭和2087年	氏名	昭和2090年	氏名	昭和2093年	氏名	昭和2096年	氏名	昭和2099年	氏名	昭和2102年	氏名	昭和2105年	氏名	昭和2108年	氏名	昭和2111年	氏名	昭和2114年	氏名	昭和2117年	氏名	昭和2120年	氏名	昭和2123年	氏名	昭和2126年	氏名	昭和2129年	氏名	昭和2132年	氏名	昭和2135年	氏名	昭和2138年	氏名	昭和2141年	氏名	昭和214
-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	-------

海原会サロン 来場者1300人超

海原会会員の親睦・交流の場として企画された「海原会サロン」が今年も9月15・16日の両日、母校の文化祭「海城祭」の場を借りて開設されました。海城祭は今年も2万人を超える人が訪れましたが、海原会サロンの来場者も昨年同様1300人以上にのびりました。サロン会場場所は昨年同様新宿の超高層ビル群を一望できる6階の見晴らしの良い場所を確保することが出来ました。

来場者の特徴としては、今年も相変わらず中学受験を希望する本人と父母、現役生徒と父母等の来場が目立ちました。また定番になりましたグッズ販売（帽子、Tシャツ、ポロシャツ）も好評でした。展示内容としては「海城学園の歴史」、「創立者古賀喜三郎伝記」、「学園生活をまとめたDVD放映」、及び例年好評な「卒業アルバム展示」。新たな企画としては「海城学園ゆかりの地を訪ねて」の写真展示、「昭和20年、30年代の海城新聞のトビックス記事展示」、「歴史を創った学園出身者100人の顔」、さらに廊下の壁面を使って我々海原会会員の活動状況を写真中心に展示しました。いずれも好評で、とりわけ「ゆかりの地を訪ねて」の企画では本会報の一面を飾るような話題も「発掘」、さらに海原会の「見学会」企画にもという話も出ていました。

海原会サロンも今回で3回目。展示企画、内容も一段と充実してきましたが、来年はもう少し原点に立ち戻って「海原会ってなんですか?」という一般の来訪者にも海城学園の同窓会組織であることをもっと分かるような企画展示や、映像による説明展示なども考えて行こうと検討しています。ご期待ください。

(サロンスタッフ 昭和47年卒 石黒淳一郎)



同業界の部会 設立相次ぐ

徳光会長の総会挨拶(2面)でも紹介されていましたが、海原会の中で同業関係者が集まって交流・懇親を図る部会の設立が相次いでいます。すでに弁護士など法曹界を中心とした「土業」会が発足、続いてテレビなど放送関係者を核として「メディア会」の設立が進んでいます。他にも医療関係などでの部会設立の動きもあるようです。これとは別にスポーツでは「ゴルフ会」が発足し、海外「ニューヨーク」で「NY会」が産声をあげるなど地域部会の活動も活発化しています。海原会では様々な形で会員相互の交流や懇親が促進されることを支援してゆきます。

〈土業会〉

海原土業会発足!

1月19日16時から定例会兼新年会を実施!

海原土業会とは、弁護士・公認会計士・弁理士・税理士・社会保険労務士・不動産鑑定士など「土業」に携わる海城OBで組織された、海原会の中では初の業界別部会であります(11月現在の会員は60代から20代までの27名)。

10月17日(水)に設立総会を開催しました。

9月27日に那須海城生を引率し、東京地裁立川支部で行なわれた刑事裁判を傍聴する機会を設けるなどの活動を開始しましたが、今後、土業会会員相互の情報交換だけでなく、海城生の職業選択に寄与する講演や海原会会員向けの実務セミナーなどの企画を進めていく予定です。

また、年間3回(1月、4月、6月)の定例会、海原会総会での活動報告のほか、臨時会議は必要に応じて随時開催することとしております。

次回は来年1月19日(土)16時から海城学園にて定例会を行い、その後新年会に移行することとしておりますので、本稿をご覧になられた方で土業会の参加を希望される方がいらっ

しゃいましたら、海原会HPを通じてお申し込み下さい。

あわせて、当会に対するご要望等がございましたら、同様に海原会HPを通じてお寄せ頂けると幸いです。

最後に当会設立・運営に多大な貢献をいただいた海原会国井氏(昭和62年卒)をはじめ、海原会役員の皆様に御礼申し上げます。(昭和41年卒 会長 唐澤洋)



〈メディア会〉

メディア会発足 3月に設立総会

新聞、放送、出版、ITなどメディア業界とそれらに関係する業界関係者に籍を置いていたあるいは置いている同窓生の交流、情報交換を図ることを目的に、海原会同業部会の第二弾として「海原メディア会」を立ち上げることとなりました。

実業の世界からは少し特殊と見られがちなメディア世界ですが、それぞれの世界で様々な貴重な経験や体験を積んできた同窓生が集まることで、これからメディア世界を目指す後輩やまさに今現役で働く同窓生たちへも何んらかの貢献ができるものと思っております。

12月1日に第二回の設立準備会を開催し、具体的な体制作りや今後の活動などについて検討を進めました。総会では徳光海原会会長に出席頂いて開催する計画で、徳光氏のご都合がつかさうな来年3月16日(土)に設定、準備を進めています。

メディアそのものおよびその関係業界にいた方、関わっていた方、もちろん現在そのような関係の仕事なさっている方広く参加していただけることを願っております。

設立総会 平成25年3月16日(土) 午後1時から 海城学園カフェテリア

メディア会へのお問い合わせは海原会HPの「連絡問い合わせ」
<http://www.unabarakai.jp/communication/>

をご利用いただくか

FAX 海原会連絡室
03-3209-6990

お願いします

第一回メディア会設立準備会

- S34 鈴木雅彦 (代理店)
- S41 松島義人 (プロデューサー)
- S41 小西洋也 (新聞・テレビ)
- S48 岡田佳之 (美術教諭)
- S57 中野匡人 (テレビ)
- S58 田所直喜 (新聞)





信州まほろばの 里より

平成6年卒 梶原 啓



約10年のサラリーマン生活の後、1年の有機農業研修を経て、夫婦二人で就農しました。各方面で活躍されている卒業生の皆様の中で、農家になられた方は少ないでしょうから、就農2年目の新米農家の実例をご紹介します。

◆まさに貧乏暇なし生活！

夕方は家庭教師のアルバイトなど

就農地は、長野県松本市郊外の四賀地区（旧四賀村）。美しい里山に囲まれた水の豊かな中山間地域です。田舎で農業と聞けば、自然に囲まれたのんびりとした生活を思い浮かべられるかもしれませんが、現実はいずれ程甘くありません。元手のない新規就農者は、食いつ持を稼いだ

め、また地域にとけ込むため、まさに貧乏暇なしの生活をしなければならぬのです。まずは畑仕事。夏は日中暑いので日の出前から畑仕事を開始します。一方で日照時間の短い秋は、日が陰ると急に冷え込むため、昼食もそこそこ仕事でなければなりません。また、農業だけではまだ生活できないので、夕方からアルバイトに行っています。そして地区活動。春の球技大会に始まり、夏の早朝野球リーグ、秋の駅伝大会、その合間に共同清掃や消防団活動などがあります。また、獣害がひどいこの地区では、今年、町会全員で鉄柵設置作業を行って、毎週土日の午前中、地元の方と汗を流しています。

◆忙しいとは言え、自由であることの心地よさ

忙しいですが、自然に囲まれながら仕事をするのはこの上ない喜びです。また、会社勤めから自営業に転職し、まず感じるのは、自由であることの心地よさです。忙しいとはいえ、時間配分の裁量も、経営上の決定権も常に自分にあるのです。当然、会社員時代以上に熱意を持って仕事に臨むようになりました。どうしても、もっと美味しい野菜ができるのか、失敗を来年に活かせるのか、そして、もっとお客様に喜んで頂けるのか。四六時中、畑のこと、野菜のこと、つまり自分たちのビジネスのことを考えて過かっています。

◆農業収入が軌道に乗ったら

就農3年目となる来年度の目標は、アルバイトをやめて、農業収入だけで生活できるようにすること。現在出荷している宅配、学校給食、レストランへの供給量を増やしたいと考えています。これから農閑期に入りますが、寒すぎて作物が育たないこの極寒期は、休養したり、農業の勉強をしたり、経営計画を立てたりする大

切な期間です。

◆「四賀梶原農園」インターネット開設

ここで少し、私たちの野菜について紹介します。野菜栽培には、米ぬか、油かす、豆かす等の植物性の材料を発酵させて自作した肥料を使っています。農業や化学肥料を使わず、植物由来の肥料だけでゆつくりと育てることにより、見た目にも元気で、味が濃く、食べると幸せな気持ちになれる野菜を作りたいと思っています。是非、「四賀梶原農園」でインターネット検索してみてください。畑の様子や旬の野菜について情報提供しています。

◆ここに移住した我々の使命を信じて

最後に。この地域も高齢化が進んでいます。限界集落の先の消滅集落という言葉も最近知りました。私達のような素人でも農業で生活していけることを示すことが、若者離れを食い止め、私達を温かく迎え入れてくれたこの地域への最大の恩返しになるのではないかと。それがここに移住した我々の使命と信じて、毎日畑に出ています。

プロフィール

梶原 啓（かじわら あきら）

平成6年海城学園卒／平成10年慶應大学卒／平成12年留学、ニューヨーク州立ボタム校卒／平成20年東京大学大学院修了／平成21、22年成田国際空港が実地する有機農業研修受講、終了／平成22年7月長野県松本市に就農（夫婦二人）



那須校
だより



那須高原海城中学 高等学校教頭
塩田 顕二郎

多摩キャンパスでの学校生活も半年を過ぎました。生徒たちは広々とした校舎とグラウンドでのびのびと学習や部活動に励んでいます。また、寮は今年によって2カ所に分散しているものの全寮制に戻ったことで、ナスカイ生らしさを取り戻し、生き生きとした寮生活を送っています。

さて、昨年と今年と東京での学校生活を続けているなかで海原会のみならず、との縁がますます深くなりました。



9月24日には宮内庁書陵部の見学会を実施し、15名の生徒が参加しました。昨年の海原会での再会した同期の田代圭一さん（平成3年卒）が宮内庁書陵部に勤務されていることを知り、今回の見学会を企画しました。五箇条の御誓文や坂本龍馬が木戸孝允に充てた書簡など大変貴重な資料を間近に見ることができ、見学後は田代さんの案内で休園日の皇居をゆつくりと散策しました。そして、午後からは国立公文書館の見学をおこないました。国立公文書館では海城学園が校舎を戸山に移転する際に文部省に提出した書類を見せていただき、海

城の歴史の重みをあらためて知ることができました。歴史好きの生徒にはたまらない一日となりました。

中学3年生は例年公民の授業の一環として裁判の傍聴をおこなってきましたが、昨年度は実施できませんでした。今年度は7月に発足した「海原士業会」の中山泰章弁護士（昭和61年卒）と大瀧靖峰弁護士（平成7年卒）のご尽力によって多摩キャンパスからほど近い東京地裁立川支部での裁判を9月27日に傍聴することができました。実際の法廷で裁判を傍聴できた生徒たちは大変緊張していましたが、傍聴後は東京弁護士会の方々の質疑応答でより見聞を深めることができました。次は2月に生徒自身が裁判官や検察官、弁護士の役となる模擬裁判をおこなう予定です。

昨年からの定期的におこなっている行事として学習法のセミナーがあります。その講師として毎回お願いしているのが清水章弘さん（平成18年卒）です。清水さんは東京大学在学中に教育系ベンチャー企業である株式会社プラスティを立ち上げ、著書に『習慣を変えよう』を執筆するなどがあります。これまでのセミナーは高校生とその保護者を対象に4回実施しました。11月には中学生向けのセミナーを予定しています。各学年ごとに何をすべきかという視点から「学習の習慣化」というテーマで生徒に熱く語っていただいております。セミナー後は生徒のやる気が確実にあがっていることがわかります。

このように今後も海原会のみならずのご協力をいただきながら、東京にいる今だからこその行事を積極的にこなしていきたいと思っています。

（平成3年卒）

クールジャパンの仕掛け人

泊 懋 さん
とまりつとむ(昭和24年卒)



日本のアニメビジネスを確立

今コミック界で記録的な大ヒットとなっている「ワンピース」という作品を御存知だろうか。単行本の累計販売数は2億冊を超え、テレビ、映画その他関連のグッズやキャラクタービジネスはとどまることを知らない話題の作品だ。その作品のテレビアニメ化を手掛けたのが今回ご紹介する泊さんその人なのです。ご本人は「たまたま社長の時に関わっただけですよ」と謙遜するが、始めて3年間は「やめましよう」と何度も言われるお荷物状態が続き、ブレイクするまでおよそ10年かかっている。20年あまりに亘って日本最大のアニメ制作会社・東映アニメーションの経営者として作品の発掘、制作、環境整備にかかわってきた泊さんがいたからこそ実現した成果であることは誰も疑わないだろう。

猛烈仕事人

泊さんが東映の常務から東映動画(現東映アニメーション)の社長に転身したのは1993年62歳のときである。同社制作の「美少女戦士セーラームーン」

われら海城人

日本初のメイクアップアーティスト

今でこそヘアデザイナーや美容師がアーティストあるいはタレントとしてテレビやメディアに登場するのはあたり前だが、この人山田益世氏がいたから今があるといつても過言ではない。およそ30年前、山田氏は日本で初めてメイクアップアーティストとしてテレビ番組組に出演する。今や大御所のキャスターである久米宏アナウンサーが司会の奥様向け

がヒットして、日本のアニメ産業全体が急拡大するちょうど転換期だった。それまでテレビ部でテレビ向けの時代劇や大人向け子ども向けのアクションドラマなどを「年1000本!」作っていた猛烈仕事人の経験を買われたといえます。

そんな泊さんが最初に気付いたのはアニメにおける制作体制の弱さだった。そこでまずアニメ制作者の人材育成を図るためのアニメ研究所を設立することから始めた。そのうえでデジタル化と国際化を柱に掲げていち早く海外を含めて制作のネットワークの構築にのりだし、アニメの版權ビジネスを確立して海外販売に打って出るなど大胆な経営に乗り出す。

「優秀な人はたくさんいますから、私はその人たちの力を発揮できる環境を整えることでしようか」という姿勢で任せてながら、陰でテレビ局の枠を確保し有能なミミック作家とその出版社との関係を深め、版權を抑えて関連のビジネスの展開というアニメのビジネスモデルを確立してきた。まさに泊さんの行動が日本のアニメ産業の成長そのものと重なっている。いまクールジャパンなどと言われるミミックやアニメが日本のソフト・コンテンツともはややされているが、実はそれ

を作り出していた黒幕の一人が泊さんという訳だ。

しんどい時代を生き抜いた自信

今年6月、泊さんは完全フリーになつた。しかし失礼ながらよく81歳まで映画(テレビ、アニメ制作の過酷な世界に身を置き、常に先頭を走ってこられたものだと感じる。その秘訣を伺うと、「性分なんです。我慢強い。どんなことも苦に思わない」とおっしゃる。「実は社長になった62歳のときには狭心症がみつかり、医者からこのままでは70くらいまで、といわれたんですよ。それでもやらなければと動き続けてましたね。そして最後に「やはり戦中戦後のしんどい時代を耐えてきた力ですかね」と感慨深かに語る。

競馬場が中学時代の思い出

泊さんが海城中学(旧制)に入学したのは太平洋戦争で日本の劣勢がはつきりし始めた昭和18年。「最初の全校行事が山本五十六元帥の国葬参列でした」。そして昭和20年6月から終戦まで「競争馬を引き馬に調教するための勤労動員に駆り出され、府中競馬場で寮に入つて数百頭の馬の世話にあたりま

した。東京競馬機動隊整備部隊と呼ばれていました。中学に入つて競馬場に行かされた経験を持つのは私たち世代だけでしょ。当時我々は馬方組といわれたのですよ。」そして終戦。中学が新制高校に変わり同級生が転校したり飛び級で進学したりと学園生活も社会一変する。それでも「面白い時代でした。英語がなくなると言っていて喜んでたり」「勉強もしてなかったんで大学受験も友達か浪人するといふから俺もといふ具合でね」と明る。

クールジャパン陰で見守る

現在は趣味の囲碁に打ち込む自由の身というが、その晩前は6段。「旅行先で職業欄に棋士と書く」ほど。こちらも相当力が入っている。囲碁の格言に「着眼大局着手小局」というのがあると聞く。これからはクールジャパンの指南役として全世界を見渡し日本のコンテンツ産業の国際化の戦略を描いているのかもしれない。(小西洋也 記)

泊 懋さん プロフィール

昭和5年生まれ/昭和24年海城学園卒
昭和30年慶応大学卒東映入社/平成元年東映動画(現東映アニメーション)社長就任
以後会長相談役を経て平成24年6月退社

自分が家元に

もちろんメイクアップの世界にも家元制度のような世界は厳然としてあったが、山田さんはここで「自らが家元になれる」とほとんど独自に研究し技術を磨き自分なりの理論や技術を確立する。それまであった美容関係の理論や技術はハリウッドの映画の世界を手本としてきたものがほとんどだった。山田さんは徹底的にそれらの本や資料を読

ローリングストーンズのミックジャガーはじめ数々の外国人タレントの日本公演でのメイクを受け持ったり、外部を入れない大手化粧品会社で初の社外契約のメイクアップアナライザーとなったり、フランスのメイクアップ学校の日本校の校長に呼ばれたり、これまでのこの人の業界での実績を挙げればきりが無い。しかし山田さんの肩書は自分のアトリエ主事者としてのものだけだ。「拘束されるのが嫌なんです」ときざりと云うが

元祖カリスマ美容師
山田益世 さん
やまたますよ(昭和41年卒)



カンボジアで起業
小市琢磨さん
こいちたくま(平成5年卒)



番組でメイクアップをスタジオで実演してみせたという。そこで自身のタレント性と確かな技術や理論が評価され瞬く間に時の人となつてあらゆるメディアに取り上げられ、およそ10年にわたってメディアの表舞台で活躍することとなった。そのことが、「躍美容師」とりわけメイクアップという職業を広く認知させることとなった。以来若者の人気職業ランキングの上位を占め、その後のカリスマ美容師ブームや今の美容タレント全盛時代があるという訳である。

脱サラしてメイクの世界へ

山田さんの経歴は異色だ。はじめか

人のやっていないことを

子供のころから感受性が強く、音楽もやっていたし美しいものや感覚的なものには興味があったことからの選択だったという。しかしその時25歳。周りは18歳ぐらいの若者ばかり。全く違う世界に飛び込んで考えたことは徒弟制度が色濃く残るこの世界に巻き込まれないで生き抜くことだったという。「人と違うこと、人のやっていないことやあうと考えるとそこではほとんど人がヘアードレッサーを目指していたので、私はやる人が少なかったメイクを選んだんです」

たかがメイクされど…

みこんで実際に試しながらそれらの理論や理屈がどうも日本人には合わないことを実感し、独自に日本人に合う理論づくりに励んだ。「電車の中や街でとにかく人の顔をみて分析したり、動物園に通つてどうして馬の目は優しいのかとかなぜ蛇は怖いのかとか観察し、そこで考えた自分なりの理論や理屈を実際に試してはまた理屈を考え直すという作業をつづけて来た」といいます。その努力の成果がある時雑誌で紹介されたことをきっかけに世に出ることになったという訳だ。

山田理論を信奉する「信者」や「弟子」たちが増えて、いまや組織こそないが山田さんが「家元」になっている。これからのことを尋ねると「母の日にお母さんのメイクを無料でやったり、老人ホームとか震災の被災地とかに出かけてメイクすると皆さんが変わったように明るくなつてうれしそうにしています。たかがメイクされどメイク」と少々遠慮しながら「社会貢献かな」。

(小西洋也 記)

山田益世さん プロフィール
美容関係の総合プロデュースをする
アトリエ ストライプ 主宰

小市琢磨さんは在学中は第1000代生徒会長として活躍。海城学園の百年史に顔写真が載る栄誉を得た強運の持ち主でもある。海城中学・高校を卒業後は、日本大学在学中にカンボジアへ渡りそのまま現地で起業。現在はコンサルティング・貿易・旅行など幅広く事業展開するロコモ社の代表をされている。

そんな小市さんにお話をうかがった。

海城時代の思い出は？

卒業では、とてもできの悪い生徒でした。中高6年間、毎年英語を中心に、赤点で進級が危ぶまれる低空飛行を続けていました。その反動なのか、中学時代は国内を、高校生になつてからは海外を一人旅するような性格になったのかもしれません。そんなできの悪い生徒だった私ですが、高校1年生の時に生徒会長になりました。微妙な思春期に、何の根拠もないですけど、自信を与えてくれた気がします。また海城祭に没頭し、4月後半から6月中旬までの間、ほ

いつ今のような海外での仕事をしようと思ったのですか

現役受験は当然ながら失敗しました。浪人中は予備校に通うふりをしながら、実際には高校2年から参加していたUNHCR(国連難民高等弁務官)駐日事務所でのボランティアが主でした。将来やりたいことが、途上国の改善に関われる国際公務員(国連職員)か国際ジャーナリストだと気づいたとき、私の受験勉強は終わつたんです。(当時)日本で唯一、途上国視点の開発経済を専攻できたのは、日本大学農獣医学部拓殖学科。当時、拓殖学科の偏差値は55くらいだったと思います。かなり早い時期にある地方試験を仙台まで受けに行き、合格通知が来たその数日後、親にこっそりと予約していた航空券を購入し、カンボジアに初めて訪れました。

海城時代から休みごとに海外へ游学されていたそうですね

中学3年生の夏休みに、家族旅行で初海外、香港に連れて行ってもらいました。高校1年の夏休みに、香港以外に安く行ける海外ということで、まずはパシフィックを選んだんです。途上国の貧しさや、それでいて日本では感じられないエネルギーに圧倒されました。また、当時ビマラ国境で紛争中の少数民族の村を訪れたことが、貧困や難民といった問題に興味を持つきっかけになったと思います。今思い返せば、ぼんやりとしたものですが勉強する目的に初めて気づいたのかもしれないですね。日本でも地元の養護学校や社会福祉協議会のボランティアに参加する一方で、(本来禁止されていた)アルバイトをして溜めたお金で、韓国やソ連、東ヨーロッパといった国を中心に旅をしていました。

カンボジアに落ち着いたのはなぜですか？

HCR駐日事務所からの紹介で、カンボジアで保護官に同行してのフィールド

後輩へのメッセージをお願いします

「世界に羽ばたきたい落ちこぼれの海城生にひと言。」

高校の成績が全てではありません。大学の偏差値が全てではありません。これからの日本は、そして世界は非常に流動的です。自分の人生で自分のやりたいことを見つけ、人とは違う自分独自の人生を楽しみましょう！

(聞き手 国井信男)
小市琢磨さんプロフィール
ロコモ社代表

生徒会長時代の小市さん





鑑友会

大歓迎 友との語り合い

4月6日(金) 東郷神社境内の水交会で平成24年度の懇親会を開催した。参加者は12名、昨年よりも多くなり、まことに同慶の至りです。

水交会に行くくと91歳の向さんがすでにみえていて1人ですつくと座っていた。やがて皆が集まってきた。隣では恒例の海軍兵学校の集いを開いている。庭園では桜が咲き、池に映えて見事な景観である。身内の不幸が生じたという嘉藤をのぞき12名が定刻に集まった。

開会のあいさつをして、向さんに乾杯の音頭を取ってもらった。向さんは今は老人ホームに暮らし、友との語り合いは全くなく、こういう集いは大歓迎なのだそう。それにしても健康である。82と4となる諸兄も同様の思いなのであり堅苦しいスピーチはなしとして思い思いに雑談をする。時間はあつという間に過ぎる。飯塚は12月に肺がん摘出手術をしたが、まだ癌は残存している。それでもあえて参加している。ひどくなったしわがれ声で一緒に栗木温泉に行こうと誘う。残

りの人生の短いことを覚悟しているのだろう。栗岩は相変わらずの電気店の事業が多忙らしい。増田が名簿から消えた友の消息をしきりと気にする。高嶋、内田と三人で池田宅を訪れ基を築きもうという話も出る。参加できないでいる友のことも話題になる。午後二時に一応の解散となったが何人かは残って3時4時まで懇談をしていた。次回は来年(平成25年)の4月6日(土)ということになった。

参加者…飯塚朗、池田脩、内田恒司、荻原照之、倉田祐之介、栗岩隆嗣、高嶋勲、福室嘉一、増田真一、向海男、山下高樹、山本直三 (山本直三)



海原三四会

母校講堂の思い出

今年の5月19日夕刻、海城学園の見学会をしてカフェテリアで同期の懇親会を開きました。母校で同期会を

行ったのは私の記憶では昭和30年に講堂で行って以来のことです。この講堂には強く印象に残ることがあります。講堂は昭和20年4月に空襲で屋根や内外の壁が破壊され、私たちが旧制中学を卒業した直後の昭和23年4月に復旧しました。この復旧にあたっては昭和22年の秋に学校から全生徒の保護者に講堂復旧のための寄付の依頼がありました。戦中から続くインフレの最中裕福な家庭はほとんどありません。目前に迫る進学にもかかりのお金が必要です。本来ならば私たちは冬休みは受験勉強に専念しなければならぬのですが、生徒は家庭の経済状況の逼迫も熟知しています。このような状況の下、5年生全員が校庭に集まり、冬休みを一週間長くしてもらい、その間バイトをして稼ぎ、学校の要望にこたえたと決議しその要望が認められました。現在では考えられないことです。

海城学園は場所こそ概ね以前と変わらぬが、校地は私たちが学んだ時代の3倍以上あります。発展し改築された現在の学校の施設を知らない者がほとんどのため、懇親会に先立って学園の諸施設を海原会の後輩で学園現職の中村久憲先生に案内して頂きました。ありがとうございました。我々の懇親会は昭和30年以来、ほぼ毎年開いてきました。海原三四会のメンバーは現在概ね82歳になります。肉体の寿命や老化には逆らえず、旧制中学卒業時3クラス約1500人の母体でしたが、今回の参加者はその約一割強の17名で少しさびしい気もしました。我々の同期会は毎年5月第三



土曜日に行っていることを念頭に置いてください。ご健勝を祈ります。(大貫金吾)

昭和25年 年次同期会

励ましあい八十路歩む

中秋の10月17日、恒例の年次同期会を南青山5丁目の「うすけぼ」で開催。

昭和25年海城高校卒のわれわれは、同19年海城中学(旧制)入学以来68年、同高校(新制2期)卒以来62年もの間、その間、戦中/戦後、半世紀以上にわたる大変な激動の時代を生き抜いてきた。そこには、子や孫に伝えたい波乱に満ちた一大スベクタールがあった。そしてともあれ、われわれは「後期高齢者」の域に入った。いまや、人生は胸突き八丁/八合目の八十路を何とか歩み続けている。過ぎし日々いろいろ

いふな想い出は、走馬灯のようにかけめぐり、尽きることがない。でも、まだまださびしい現実が前途に横たわっていることをみんな覚悟をしている様子ではあった。

この夜、集まったのは22名。世話人グループの尾上武郎君が進行役となり、ひと足さきに旅立った仲間たちの冥福を祈って黙祷を捧げたあと、石川達也君、足立和君の開会挨拶、秋山哲児君の乾杯音頭で宴に入る。

宴は、たけなわ、談笑の輪があちこちに咲いた。そうしたなか、この夜の目玉は、ことしも仙台からかけつけた高橋博君であった。小学校時代から剣道に励んできた同君は、今夏、宿願の七段昇格を果たした。東日本震災では、大きな被害がなかったが、このニュースは、みんなを大いに元気づけた。

また、ひとりづつ、想い出や近況など短くスピーチしたが、そこにはみじん





「二六会」は偶数月の第四日曜日の午後二時から「高田寺パティ」の名で長きにわたり太田稔君の店「アルシェ」で開催している。今年2月26日に100回を迎えたが、4月の集まりで「100回を記念して旅行にでも行くか」との話が出て盛り上がり、今回100回記念旅行を行うことになった。

昭和26年卒 海原二六会 100回記念旅行

の暗さはなく、来年もまた会おう、との声が飛びかった。とは云え、自身や伴侶の健康問題など、きびしい状況にある仲間も決して多くはない。しかし、明後年には中学入学以来70年を迎えるわれわれ同期にとって、お互いに力を分かち合う、まことに楽しい一夜となったことは、まちがいない。友よ、生きていくうちに、来年もぜひお会いしましょう。
(梅沢喬)

なった。参加者はいつもお世話戴いている太田稔・公子夫妻、お手伝い戴いている石黒富子嬢、今回某大手重工の伊豆高原クラブを手配してくれた藤田富幸・富恵夫妻、市川成美、小館啓人、星川敏夫、山口準一、山本安司、小竹康幸・春美の12名。豪華なクラブで温泉に、食事にカラオケ。楽しい一泊二日を満喫した旅でした。元気でいることはいろいろと楽しみを味わえる感謝!!
(小竹康幸)

海原二七会 吾々はこの学校に居た

市ヶ谷・私学会館「アルカディア」で10月19日二七会を開催した。我々は、敗戦の翌年昭和21年入学したことになる。

顧みればこの世代は貧窮と希望とデカダンの中で巷をうろついたような気がする。明日どうかなつてもおかしくない年頃になった。

計報に接することになって来たのは淋しさを禁じえない。

二七会では受付で「近況報告書」を配布する。欠席者も含め全員の近況が記されている。あいつはどうしているか、こいつはどうしているのかなあと消息に一喜一憂する。

出席者19名、健康を祝して乾杯の音頭が始まった。なにしろ毎年会う顔と久しぶりの顔があるので、それに年を追うごとに怪しげなお爺さん?の集まりになつてきた

宴たけなわになった。口が軽くなったところで、改めて顔と名前を判別するためにも自己紹介に及んだ。健康

の話、現況の話し、海城の思い出話など、若かりし「自分に返り、話しは尽きない。

考えようでは吾々は貴重な存在になつた。辛うじて戦中戦後のことを知っているのは我々の世代だろう。海城は変わった。世代も変わった。我々はこの学校に居たから訪ねる。

(山本満男)



海原三三会

卒業55年の再会誓う

猛暑の夏もどこへやら、虫の音を聞きながら今年も恒例の三三会を母校カフエテリアで開催しました。出席は26名。

いつも出席していた長田耕輔君が3月に、伊藤彰規君が4月に他界されようと寂しい感じです。両君を偲び、ご冥福を祈ると共に物故者に黙祷。司会



進行は池内宏君と加藤清治君。今年も初参加者が1名、伊藤利男君。また三、四年ぶりの出席者が二、三名おり私たち幹事としては嬉しいこと。

近況報告では、伊藤君は新聞部のOB会には出席していたが、母校に来たのは卒業以来とのこと。学生時代のエピソード、駅からの通学路などの変貌ぶりに驚いた様子。古賀君からは学園が中高貫校にしたこと。海外帰国子弟受け入れの話。これからの学生は何処でも活躍できる人間力をつけることが必要だと語った。

「海原ゴルフ会」と海城祭での「海原会サロ」を池内君が、「無言館」見学会の報告が石原君からありました。来年は卒業55年の節目、明るい笑顔での再会を誓い校歌を斉唱して散会した。
(前田昌則)

海原三四会

還暦過ぎて7回目

前回の古希を迎えての同期会から8年8か月、平成24年5月27日に南青山の「ホテル・フロラシオン青山」で開催した。出席者は46名。当初は50名の出席回答があつたが4名が健康上の理由で出席の取り消しとなった。歳を重ねると当然あることだと思う。また病をもちながら杖をついたり、家族に付き添われたりして足を運んでくれた友もいたことはうれしい限りである。今回の会は還暦を過ぎて7回目の同期会で、生を受けてから七回目の辰巳の年の開催である。幹事の開会あいさつでスタート、物故者への黙祷を



げた後、乾杯と進められて食事、歓談タイムとなった。其処此処に人の輪ができ、友を呼び合い声を掛け合い団欒の時間が過ぎて行った。しばらくして司会者の進行で参会者のスピーチが始められた。マイクを手手に現役時代の仕事の話であるとか、今も現役で活躍する現況報告。趣味に関する話、健康維持に関する話、海城高校在学当時の思い出話、その他いろいろ。司会者の巧みな呼びかけに皆が応じて海城ボーイの「今」を楽しんだ。皆大した男たちである。お開きを前に恒例となっている中学・高校6年間在籍者のリードで校歌を斉唱、記念の集合写真を撮り、これからは元気に顔をあわせようとして会を開いた。(市川武昭)

昭和35年卒 同期会 正式名称を「海原三五会」に

6月2日の海原会総会に先立ち、教室を拝借して昭和35年卒の同期会が行われた。昨年は古稀という節目の年だったのか42名もの出席者があったが、今年は「ヒラ年」なので20名くらいかなあと思っていたところ、何と39名も参集したのにはビックリした。

幾つかの決議事項があったが、主なものは①各クラスから名前の幹事が選出されたこと。②同期会名を正式に海原三五会としたことである。これ迄は組織めいたものがなかったのでもすれば散発的な集まりであったが、これにより今後は定期的な集会を進めていく基盤ができた訳で、誠に喜ばしい。続いて総会に出席したが、懇親会ではカフェテラスの2階に我々のテーブル

ルを用意してくれてあったのがあるたく、一同、席を同じくして大いに昔話に花を咲かせることができた。また閉会後は有志で二次会へ。ここでも年を忘れて！意気軒昂ぶりを発揮した。(渡辺育男)



昭和41年卒 同期会 会える時が吉日

11月10日母校のカフェテリアを借りて同期会を開催した。前回還暦祝い兼ねた同期会を開いてから6年ぶり、特に節目の年という訳ではないが、古希までは待てないという声もあつての開催となった。それでも67人が集



まり、山西頭六先生と菅野一雄先生にもご参加頂いた。しばらく懇談のあと、一人ひとりの近況報告とはいかなかったが卒業時のクラスごとに集まって簡単な自己紹介をしてもらった。3人しか出席者が居ないクラスから15人も集まったクラスまでそれぞれだが各クラスの色の違いもでて面白かった。今回は古希を機会に大規模な同期会を考えているが、その前に卒業50年という節目もある。またの再開を約して別れた。(森山昭洋)

昭和46年 3組卒クラス会 喜寿と還暦のダブル祝い

60歳の還暦を機に同級生で集まろうか、ということで21年ぶりにクラス会を開催することにしました。しかし同級生の住所もわからず、小垣先生も住所が変わられ連絡もできず、と途方に暮れていたところに偶然「海原会総会案内」が送られてきました。そうだ、海原会を頼れば何とかなると思

い海原会事務局の中村久憲先生にお手伝いをお願いしました。程なく小垣先生と連絡が取れ、お聞きすれば喜寿を過ぎたとのこと、喜寿と還暦のダブル祝いをテーマに開催が決まりました。住所のわかる人31名に連絡し、当日10月20日には何と12名が集まってくれました。17時に学校正門に集合、すっかり変わった学校内を見学させていただきました。その後、場所をこれまたすっかり変わった新大久保に移して懇親会を行いました。

小垣先生の若くて元気なお姿と変わらぬ話ぶりを拝見し、同級生が各自近況報告を行い、42年ぶりあるいは21年ぶりの再会を喜び合いました。そして、今後は、生存確認の意味を含めてクラス会を毎年やろうということになりました。この記事を読んだ昭和46年3組卒の皆さん、次回の案内状を送りますので海原会に住所を登録してください。

懇親会の後、誰からともなく二次会に行こうということになり歌舞伎町に移動してカラオケにいきましました。同級生が集まれば同年代の共感できるオーディーズ(単なるなつメモ)で夜遅くまで大盛り上がりしました。やつてことは高校時代と変わらないです。末筆ながら、案内状の発送などだけでなく当日は学校内を限なくご案内いただいた中村久憲先生に心より感謝申しあげます。(齋藤昭廣)

昭和50年卒 目良会 37年ぶりの再会

9月15日、文化祭の教員写真展で

目良先生の素敵な作品を鑑賞したあと新大久保の「日本海庄や」でクラス会を開催しました。幹事の岡本君の尽力により6年5組の16名のメンバーが集まりました。ほとんどの参加者が37年ぶりの再会だったので顔と名前が一致しませんでした、話しているうちにその顔から面影や思い出が徐々に浮かび上がってきたことは不思議でした。経済評論家、リハビリ技師、アコーディオン奏者、歯医者、薬局店主など様々な職種で皆が活躍していると聞き人生の機微を痛感しました。また数学の木村先生と関先生が飛び入りで参加して頂き、大変盛り上がりしました。そういう不肖細川も何の因果か31年間海城で教師を続けております。元氣であればあと9年は海城にいますので、海原会総会などで学園を訪れた折には気軽に声をかけてください。目良先生、40年間本当に海城のためにありがとございました。これからも元氣で写真を撮りながら自分探しの旅を続けてください。(細川勝)



昭和57年卒 同期会 祝卒業30年

卒業30年を祝しての同期会が、8月12日(日)、新宿歌舞伎町TOUR Iにて行われました。お盆の連休期間中にもかかわらず、先生方6名、卒業生89名の計95名が参加し、盛大に開催する事ができました。きっかけは、6月2日の海原会総会。「卒業30年で何か記念品がもらえるらしい」という海原会会報の情報を元に、約20名が集結した事でした。クラス会もほとんど行われていない状況で、一気に同期会を行おうという、そもそも無理のある企画で、しかも開催までわずか2か月余しかないというあわただしさの中でここまでできたのは、ひとえに幹事全員の「同期会を実現したい!」という思いがあつてこそ。

会場が満員になり、「おー!久しぶりー!」と言って握手しあう姿が、あちらこちらで見られる中、司会の菅沼君による開会宣言、続いて山西先生の音頭で乾杯を行いました。

演出も、「徳光海原会会長からの祝辞(VTR)」に始まり、現在の海城の光景を映した映像「海城は今」、亡くなった恩師や仲間「追悼ビデオ」と山口恩門君と横山君が頑張ってくれました。途中、先生方と各クラスからの「菅沼!俺にもマイクを渡せ!」「コーナーをはさみ、福島半一先生から五島列島修学旅行の裏話が披露されました。今度は、我々が先生方を引率して再び五島列島へ訪問する事を誓い、最後は福田貴之君の一本締めで、幕を閉えました。(永峯一慶)

昭和57年卒 3年9組クラス会 英国赴任者の壮行会

6月15日、浜松町新亜飯店(小龍包で有名!)において、昭和57年卒3年9組のクラス会が行われました。当初の目的は、ロンドンに行く事になった石崎君の壮行会。理科コースらしく、医師4名、歯科医師1名、1系2名、理工科系大学教授1名などといった顔ぶれ。前回は、1年半前に「筒井組」と称して7名で行いましたが、今回は15名。想い出や近況話に花が咲き、3



時間という時間は、あつという間に過ぎてしまいました。

特に石崎君は、ロンドン赴任の先輩である、筒井君の話に熱心に耳を傾けていました。今回残念だったのは、恩師である伊藤先生が来られなかった事と、地方組を呼べなかった事です。次回は、地方組も含めて参加する事を誓って閉幕しました。(写真左より)西川正、歌橋和哉、山田陽一、筒井英光、亀山隆、大矢智博、野口俊也、上野隆史、浅野浩一、森本達也、永峯一慶、石崎一郎、金光裕幸、馬場崎徹、(錦織健太郎、二次会より参加)

(永峯一慶)



昭和57年卒

海原会総会に結集

昭和57年卒は卒業30年目の節目でした。私の所属した8組の有志は徳光和夫会長から記念品をいただけるらしいという事を知り、卒業30年目の今回、学校見学会も兼ねて総会へ出席しようとしていました。

総会出席の都合がついた8組有志は6名、30年ぶりの母校でした。

総会・懇親会では、さらに10名以上の同期と会うことができました。中には、ひとりの出席で「話し相手がいなかったらどうしよう」という心配もあったようですが、顔を見て話しているうちに徐々に30年前の記憶がよみがえり、中学や高1時のクラスメート、同じクラブなどいろいろなつながりも判明し、お互いに再会を喜び合いました。

懇親会終了後、さらに2次会へ突入しました。最後には「今後も、クラスを超えた同期会を定期的に行いたいね」ということになりました。30年ぶりに懐かしい顔に出会えて、50歳を目前に自分の原点を見つめ直すとても貴重な一日を過ごすことができました。

当日、確認できた同期は以下の19名です。4組(菅沼一郎、杉田直孝、中野匡人、山口恩門)、6組(荒川康、8組(井上崇、後藤充、坂本一郎、玉置英也、配川尚士、横公雄、道野邦男、森雅品)、9組(歌橋和哉、永峯一慶、錦織健太郎)、10組(倉井健一、田中洋一郎、山中茂夫)

今回の再会を契機に、4組、9組ではクラス会の計画が進んでいるようです。最終的には「五島列島の旅アゲイン」というドリームプラン(定年後?)も出ています。9組の永峯くんが「海城高校1982年卒」というfacebookグループも立ち上げてくれました。

この記事をご覧になった昭和57年卒同期のみならず、久しぶりに高校の卒業アルバムを開いてみて、友人と連絡をとったり、クラス会を開催したりしてみませんか。(坂本一郎)

平成19年卒 6・5組クラス会 渡邊と愉快な仲間達

8月5日卒業6年目になるクラス会を「新宿手作り居酒屋甘太郎」で行いました。22名が参加し、楽しくワイワイ昔話や現状について語り合いました。理系で医大生や大学院生が大変多く、来年から社会人になるための準備をする学生最後の夏休みで皆充実かつ多忙な日々を過ごしている様子でした。

「渡邊と愉快な仲間達」という会は、渡邊聡大先生が初めて担任を受け持たれた学年の5・6年生時の5組の同期生の会で、卒業2年目から毎年夏に開催されており、今回で5回目。

渡邊先生は現在高校3年生の担任をなされていて、ついこの前まで高校3年生だった自分達の一回り後輩を受け持つという立場と聞き、光陰矢の如しとはまさにこのことだと思いました。この記事を読まれ連絡の来ているい





同期生は是非Facebook等で中村と連絡を取り頂きたいと思っております。

最後に他クラスではありませんが、吹奏楽で同じ時間を過ごした親友、故古澤宏晃氏のご訃報を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。(中村昌義)

O B 会

山岳部 O B 会

活動再開 高尾山山行

海城山岳部は実は結構歴史があり、会発足は昭和28年。発足当時は「かたつむり登高会」として活動し、顧問の大貫先生の指導により高レベルな山行を訓練、実施していた。それに伴い O B 会も設立され、山岳部・O B 会共に大学山岳部と同等のレベルまで推移していた。その後衰退と再盛を繰り返し、現在に至る。

実のところ私が高校2年だったころは O B 会があることを知らなかった。

た。だが熱心な友人と同期が奮起し、O B 会を復活させようということで、2年前より行動し、ついに O B 十数人と連絡を取ることが出来た。

まだ会運営が不安定ではあるが、6月10日に高尾山山行を行うことが出来た。

大貫さんは久しぶりに彼の生徒と出会うようで、とても嬉しそうにしていた。O B が久々に顔を合わせることができた、これだけでも山行を計画した意味があるというものだ。

今回は試しということで比較的簡単な高尾山を選んだが、どうやら O B の方々はさすがに楽だったかもしれない。運営が軌道に乗ったら宿泊含めた山行も考えておこう。



写真：高尾山山頂にて上段左から…佐々木・勝元(平成24)譲原(昭和48)大貫(昭和23)那須(平成23)外間(平成23)下段左から…脇田(高2)笠井(昭和41)杉本(昭和49)江口(平成23)三浦(平成21)

連絡ください。まだ40人しか連絡が取れません。現役山岳部・O B 会のさらなる発展のため、ご協力をお願いします。メールアドレス…

kaishangaku@nani.com

(平成24年卒 勝元義史)

ラグビー部 O B 会総会

創部50周年に向けて

9月1日、ラグビー部 O B 会総会が母校カフテリアにて開催されました。顧問の小林先生が急逝されて初めての総会は、母校グラウンドでのタツチフット(降雨にてすぐに中止になってしまいました)が、有志による先生の墓参もあり、50名近い卒業生が集まりました。懇親会には草野先生も来られ、夏合宿の打ち上げを思い出させて戴ける余興で盛り上げて下さいました。来る創部50周年に向けて再会を誓い合って散会しました。」

(昭和54年卒 栗岡克典)



文化祭実行委員会(文実)生徒会 O B 会

現役東大生の講演好評

文化祭実行委員会(文実)・生徒会 O B 会では10年以上、海城祭で展示や講演等を行っています。今年は、現役の東大生でロボットを製作している



文実 O B の若田部君が、所属するロボットチームや今年の「NHK 大学ロボコン」に出場した

時の様子などについて映像を交えながら語ってくれました。観客は講演に熱心に聞き入っており、中には講演終了後に若田部君のところまで質問にくる方もいました。2日目の夜は毎年恒例の飲み会。昼の海城祭には顔を出せなかった O B も合流し大いに盛り上がりました。

なお、若田部君が所属する東大チームは、今年の「ABUロボコン」香港大会に出場、惜しくも準決勝で敗退しましたが、ABUロボコン大賞を受賞しました。おめでとう!!

(平成11年卒 齊藤亮輔)

地域海原会

海原会 ニューヨーク同窓会

海を越えて2人で立ち上げ

平成24年11月上旬、ニューヨーク市のグランドセントラル駅構内「Junior's」にて、ミニ同窓会を開催しました。といつも参加者は平成13年卒業の羽山遼君と平成22年卒業の私の二名のみ。私が羽山君のことを海城 BBS で拝見し、コーネル大学で学位を取得したという共通点から、連絡を取り、会合となったのです。二人の間には一回りも違う年齢差があるにも拘わらず、長島先生は怖かった、襟に着ける校章の色は何色であったか等、共通の話題を探りながら話は進み、お互いの研究内容や、米国在住での苦労・笑い話で歓談した一時でした。なんとマンハッタンには羽山君が知っているだけ



でも他に2名の海城卒業生がいるとのこと。今回は4名で会合し

てみましょう、と締めくくりお開きとなりました。羽山君は現在ロックフェラー大学でバイオロジー研究に従事されており、ニューヨーク市を拠点として今後益々のご活躍が期待されます。私は企業派遣で来夏には帰国予定ですが、まさしく海原を越えて活躍している卒業生諸兄が多数おられると思いますので、そのような繋がりも広げて行けたら、と感じた一日でした。写真は羽山君(右)とグランドセントラル駅構内で撮影したものです。

(平成22年卒 安井 喬)

演劇部

部員／11名

一時間半強におよぶ舞台を2日間で2回の公演を打ったのだが、全部員に女性教師3名を含む9名の教師。中村久憲先生は制作、次重文博先生は演出、田村祐一先生は音響、福島羊一先生、中村陽一先生、横倉浩一先生は役者として参加。それに、東大、早稲田で

演劇部は今、年一回、秋の学園祭で公演するのが最大の活動目標となっている。そこに向けて、部員たちは夏休みに合宿稽古して本番に臨んでいる。ただ悩みは部員が少ないこと。現在は11名(高校生のみ)だが、10年前は部員が減つて部が消滅しかねない危機もあったという。その打開策として始めたのがPRを兼ねての文化祭での公演だった。生徒だけでは役者やスタッフが足らず、先生、OBも加わつての大イベントとなった。現在演劇部を支えているのが、顧問の中村久憲先生(国語科)、部長の前田流君(高2)。

生徒と教師は仲間だ！

演劇部は今、年一回、秋の学園祭で公演するのが最大の



芝居をやっている演劇部OB2名が加わっての合同公演となった。半分の10名が初舞台、演者の最年少15歳最高齢65歳と、年齢差50歳のユニークな集団。それぞれが演技だけでなく大道具の製作をしたり、音響、照明なども担当。さらに経験者は演技指導や殺陣指導に当たり、全員で舞台を作り上げた。今回の夏休みの稽古は、実に28日間にも及んだという。

「小学校の学芸会で主役を演じて楽しかったから」「目立ちたがり屋だから」「普通の学校生活と違うことをしたかったから」「高一のコミニケーション授業で小演劇をやって興味をもったから」と、演劇部に入った動機はそれぞれだが、皆演劇は初めて。大学で演劇をやっておられた中村久憲先生や演劇部OBから手ほどきを受けて懸命に稽古に励む。

一度廃部の危機を味わった演劇部だが、自分たちは演劇部の新しい伝統づくりに参加しているのだという。自負を部員たちに感した。

（北村 隆）

(北村 隆)

ラクロス部

部員／35名

とはいえ男子ラクロスはまだメジャーとはいえない。男子のラクロス部がある高校は都内に3校しかない。海城のラクロス部も歴史は15年ほど。運動部の中で最も新しくできた部だという。

ゼロから積み上げた強さ

ラクロスというと女子のスポーツというイメージがあるというので早速話を聞いてみると、同じラクロスといっているとは全くと言っていいほどの違いがあるという。イスホッケーに近い格闘技のようだ。防具を持って激しくボールを取り合い、ゴールを打つ。負傷することもある。実際、部長は練習中に鎖骨を折る怪我をしたという。ポーツだ。それもある中学生は入れない。

もあつて中学生は入れない。

とはいえ男子ラクロスはまだメジャーとはいえない。男子のラクロス部がある高校は都内



会った生徒が、帰国してから仲間を募つて立ち上げたのが最初だという。部員数が少なかったことや、ラクロスそのものが知られていないこともあつて、長く運動部の一員にもいれてもらえず、学校のグラウンドの使用もできなかった。それでも部員たちは自前で用具をそろえ、近くの西戸山公園などの運動施設を借りて練習し、さらに夏には越後湯沢で合宿をするなどして努力を重ね、昨年ようやく月曜の放課後と水曜の朝の時間に学校のグラウンドの使用を割り当てられるようになった。ゼロからのスタートでようやく一人前に認められ顧問の細川勝先生もほつとした様子だが当の部員たちは極めて明るく元氣だ。これまで自分たちで二つずつ積み上げて作り上げてきた歴史が自信につながっているからだろう。逆境にあつてもへたれない強さを身につけているようだ。

それだけに皆ラクロスに懸ける思いは強い。大学では東大、一橋、早稲田、慶応の男子ラクロス部が盛んだそうだ。部員のほとんどが大学はそこを目指す決めてゐる。

（小西洋也）

永年会費納入者
(敬称略)

昭32	山崎 洋	平15	木村純一郎
昭62	戸田 朗夫	昭50	佐藤 政広
平24	中川 弘毅	昭40	大塚 廣
(三万三千円)			
平11	佐伯 哲郎	昭33	鈴木 勝純
平23	小林 紘人	平7	宮本裕一郎
平10	阿部 祐	昭60	市村 元一
平13	北嶋 俊寛	平24	松山 周世
平9	伊藤 英臣	平24	梅田 淳史
平11	木下 智文	平18	朝日健一朗
昭39	横井 信一	平3	大熊 祐介
昭41	小杉 道隆	昭35	鱈門 和也
平24	安田 幸矢	平6	重永豊一朗
平24	川上 道太	昭59	高橋 宏
平13	中間 徹	平22	高橋 哲也
昭44	千賀 孝雄	平24	東野 祐希
昭60	前川 博	平6	小林洋一郎
平23	一色 智行	平23	栗山 将一
平12	小関 隆善	平20	岡田 雅之
昭57	荒尾 純平	昭33	加藤 清治
(五万円)			
昭57	配川 尚士	昭45	石川 雅康
(五万円)			
平20	佐藤陽一郎	昭56	赤堀 基樹
昭46	工藤 聡	昭57	込谷 憲
(五万円)			
昭54	川田 裕信	平成24年4月から 平成24年10月まで (受領日順)	
昭49	稲井 俊二		
平18	鈴木 雄太		
平24	高尾 修		

永年会費を納入されている方にも、封入作業の都合で、会費の振込用紙が同封されていますが、ご了承ください。

「無言館」見学会

Photo Sketch



「無言館見学会」の写真集

晴天の10月25日 海原会行事で催行された楽しいスナップ写真を集めた写真集が出来ました。信州上田市の塩田平を見下ろす風光明媚なところの無言館、信濃テッサン館などウォーキングコースの中を歩いた場面など、ご覧下さい。ご希望の方は500円(郵送料代)で申し受けます。

お問合せ山本満男まで・043-461-6746
mail: yama2459@ybb.ne.jp

お知らせ/
掲示板

二七会(同期会)の写真集
が出来ました

海原二七会(同期会)
Photo gallery



去る10月19日同期会が行われました。仲間の思い出が一杯詰まっています。都合により出席出来なかった方は、お互いの消息を知るためにも、昨年から発行しています。又談笑しているスナップ写真も掲載しています。

お問合せは、中嶋可明まで、(03-3368-8486)

★バックナンバーについて★

【会報バックナンバー閲覧パスワード】

ホームページの活動レポート*からは会報のバックナンバーの閲覧ができます。閲覧にはパスワードを設定しております。ユーザー名はkaihouです。

*http://www.unabarakai.jp/report/
パスワードは2012年12月14日までは「kaiJo:121」
2012年12月15日からは「mR:ki3ro」になります。

呉座勇一君、本を出版

平成11年卒の呉座勇一君(4組)が、この度本を出版しました。『一揆の原理—日本中世の一揆から現代のSNSまで』(洋泉社 定価1680円)です。私も買って読みましたが、これまでの一揆のイメージが改められるとともに、現代のSNSと一揆を結び付けて論じている点が、新鮮であると感じました。(平成11年卒 齊藤亮輔)

海原会グッズ

海原会グッズはFAXやメール、ホームページでの注文もお受けしています。氏名・送付先・電話番号・ご希望のグッズの品番・個数をご連絡ください。

お支払いはグッズに同梱した振込用紙にてお支払いください。
※会報に同封されている振込用紙はグッズ代金の支払いには使用しないでください。

FAX : 03-3209-6990E-mail : unabara@kaijo.ed.jp
HP : http://www.unabarakai.jp

※ホームページはトップページ右上の「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」からお進みください。



キャップ(3種)

品番	種類	価格
C1	青白	1200円
C2	青	1200円
C3	青刺繍入	1500円



Tシャツ(KSと錨のエンブレム2種)

品番	種類	価格
T1	Tシャツ(大きめのLサイズ)KS	1000円
T2	Tシャツ(大きめのLサイズ)錨	1000円



ポロシャツ(KSと錨のエンブレム2種)

品番	種類	価格
P1	ポロシャツ(Lサイズ)KS	2000円
P2	ポロシャツ(Lサイズ)錨	2000円

※別途、送料がかかります。

卒業アルバムの電子化に
ご協力ください

「海原会サロン」の人気展示の1つに過去の卒業アルバムがありますが、原本の保護の観点から昨年より電子化を進めています。電子化が済んだ卒年のアルバムについては会場で皆さまにレプリカを自由に閲覧していただくことができるようにしています。

しかし資料室に昭和以後では以下の卒業アルバムがありません。卒業アルバムをお持ちの方で電子化にご協力いただける方は卒業アルバムをお貸しください。

昭和2・3・4・7・10・12・13・18・19・20年卒
昭和21・22・23・24・26・27・28・29・46年卒
平成14・17・18・20年卒

また戦中戦後の一時期には卒業アルバム自体が存在しない卒年もあると聞いています。その場合、何かの集合写真でも構いません。皆様のお写真を海城学園および海原会の貴重な歴史資料に加えていただければと思います。

◆ 訃報 ◆

謹んで
ご冥福をお祈り
申し上げます。

	昭35	昭34				昭33		昭31	昭30	昭29			昭28	昭27		昭26		昭25		昭22			昭21		昭20	昭19	昭16	昭15		昭14	昭12	
秋山	富永	井上	中西	中島	下谷	阿部	森田	加藤	河原	奥村	五十嵐清一	佐藤	小糸	橋本	前田	澁谷	五十嵐秀春	土田	河村	深沢	栗林	田中	平城	栗原	中島	小倉	下村	小川	小堀	山田	石井	高呂
岳雄	宏隆	浩一	輝一	芳彦	浩彦	実	英樹	良二	秀治	祐治		寛昭	洋史	敏夫	榮一	和憲		和男	隆司	俊逸	孝一	収	好明	信昭	康夫	俊正	昭二	峰伯	宗慶	功	貞治	高
22			23	24	24	22	23	21	22	24		22	23	24	24	21	23	24		24	23	24	23	1	24	19	24	24	23	22	24	23
1			4	11	1	9		9	11	5		9	10	4	4			2		3	7	1	9	4	1	10	7	6	4	11	3	3
23			4	6	25	19		12	5	1		9	5	14			6		4	6	24	9	7	25	5	15	5	15	3	20	21	

編集担当

山本満男	(S27)
片山忠美	(S28)
石原長夫	(S33)
安藤浩	(S34)
北村隆	(S40)
小西洋也	(S41)
国井信男	(S62)
岡本浩太郎	(H02)

◎海原会総会でも素晴らしい演奏を聴かせてくれる海城学園の吹奏楽団は毎年5月に20回目の記念定期演奏会を開催します。公演日は2013年5月6日(祝)場所はなかのZERO Hall 出かけてみては如何ですか。(安藤)

◎「まほろば」古事記にヤマトタケルの命が歌で綴った言葉。豊かな場所を指す。まほろばの里より来年の報告を待っています。(山本)

編集後記

昭35	昭34	昭33	昭31	昭30	昭29	昭28	昭27	昭26	昭25	昭22	昭21	昭20	昭19	昭16	昭15	昭14	昭12
上田隆三	高木宏昌	山田英世	牛田泰弘	松田攻	網野望	大野隆	小野秀明	遠藤茂雄	菊池忠茂	松崎美裕	濱田拓也	岩上太明	山岸遊也				
24	24	24	23	23	23	24	20	23									
6	5	1	8	5	12	1	6	5									
23	12	13	30	31	20	22											